



表紙、目次、奥付

著者	筑波大学URA研究戦略推進室
雑誌名	人文社会系分野における研究評価：シーズから二 ーズへ：研究大学強化促進事業シンポジウム報告 書
発行年	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00155091

研究大学強化促進事業シンポジウム報告書

人文社会系分野における研究評価
～シーズからニーズへ～

研究大学強化促進事業シンポジウム報告書

人文社会系分野における研究評価

～シーズからニーズへ～

はじめに

平成も最後の年となり、日本の科学技術のさらなる活性化のため、人文・社会系の分野を含めた政策が検討されています。また、文部科学省をはじめとして各所で報告や提言、そして研修などが行われており、この分野の社会的役割の明確化、海外も含めた研究発信の強化が議論となり、課題となっています。

研究評価の代表格である Citation ベースの指標は、ある分野においてはニーズに合っていますが、この手法をシーズとして人文社会系に当てはめても、研究の全体像をとらえているとは言い難い状況です。

筑波大学が平成25年（2013年）に採択された研究大学強化促進事業は中間評価を終え、次の5年のフェーズに入っています。本学では、初年度より「理系以外での研究実績評価指標の構築」について実践しており、この度、筑波大学研究大学強化促進事業シンポジウム「人文社会系分野における研究評価～シーズからニーズへ～」の開催に至りました。本シンポジウムは、筑波大学URA研究戦略推進室の主催により、2019年2月15日に虎ノ門ヒルズフォーラムにおいて開催しました。本冊子は、このシンポジウムの報告書です。

当日は、人文社会系分野のニーズに合った研究評価指標について、評価される側はどこを見てほしいのか。評価をする側はどこを見たいのかを含めて、出版・データ提供側の方も交えた形で議論を行いました。当日の臨場感を感じていただきたく、参加いただけた方も、今回参加いただけなかった方にも読みやすくなるよう心掛けました。

本シンポジウム開催にあたり、筑波大学人文社会系・人文社会エリア支援室の関係各位および文部科学省研究大学強化促進事業関係者の方々に感謝申し上げます。

げます。本報告書も含め、誰のための評価なのか、何のための評価なのかを見直す方が増えるきっかけとなることを願っています。

2019年3月吉日

筑波大学研究大学強化促進事業シンポジウム

「人文社会系分野における研究評価～シーズからニーズへ」事務局

目 次

はじめに	3
【開会挨拶】	7
木越 英夫 (筑波大学副学長・理事：研究担当)	
【来賓挨拶】	10
春山 浩康 (文部科学省 研究振興局 振興企画課 学術企画室長)	
iMD: 新たな学術誌評価指標の提案	13
池田 潤 (筑波大学学長補佐室長／人文社会系・教授)	
人文学の研究はどのようにすれば「見える」のか：.....	29
人間文化研究機構の取り組みを通じて	
後藤 真 (人間文化研究機構／国立歴史民俗博物館研究部・准教授)	
Supporting the best research in UK	45
David Sweeney (Executive Chair of Research England)	
Bibliometrics and Beyond:	53
Metrics for all Types of Scholarly Output & Telling the Story Around the Societal Impact of Research	
Anders Karlsson (Vice President of Global Academic Relations of Elsevier)	
Open Research Publishing:	75
enabling more holistic reporting and evaluation of research	
Rebecca Lawrence (Managing Director, F1000 Group)	

社会から見た大学の評価	93
松本 美奈 (読売新聞記者、国立大学法人評価委員会委員)	
パネルディスカッション	101
【閉会挨拶】	123
青木 三郎 (筑波大学人文社会系長)	
アンケート結果	127

研究大学強化促進事業シンポジウム報告書

人文社会系分野における研究評価 ～シーズからニーズへ～

発行日：2019年3月

発行者：筑波大学 URA 研究戦略推進室

印刷所：株式会社いなもと印刷



iMD
index for Measuring Diversity

TSUKUBA index